

# 農薬豆知識【病気のお話】 (平成25年の小麦雪腐病の発生状況と褐色雪腐病について)

平成24年度は積雪期間が長く、雪腐病の発生面積と被害面積は平年に比べて高く、廃耕にされた方も多かったかと思えます。今年の雪腐病の発生状況について、北海道病害虫防除所から5月20日付けで発表がありましたので、雪腐病の発生状況と雪腐病の中の褐色雪腐病について紹介させていただきます。

## 1. 平成25年度、雪腐病の発生状況

(北海道病害虫防除所調査より)

予察圃における積雪状況を平年と比較すると、根雪始めは長沼町と芽室町では早く、訓子府町では平年並だった。融雪期は訓子府町ではやや早かったものの、芽室町では平年並で、長沼町ではやや遅かった。このため積雪期間は、訓子府町では平年並だったが、長沼町と芽室町では長かった。雪腐病の発病度を平年と比較すると、長沼町の「チホクコムギ」ではやや高かったが、芽室町では平年並、訓子府町では低かった。病原菌種別の発生割合は、長沼町では雪腐褐色小粒菌核病が主体であった。一方、芽室町では雪腐褐色小粒菌核病、訓子府町では雪腐黒色小粒菌核病が主体だったが、一部の品種で紅色雪腐病が発生した。一般圃における発生面積率および被害面積率は平年並であり、病原菌種別では、雪腐褐色小粒菌核病と紅色雪腐病の割合が高かったが、一部の地域では褐色雪腐病の割合も高かった。

## 2. 近年の雪腐病の発生状況と対策

ここ5年間の発生を見ると、平成20～23年が少発生で平成24年が多発生、平成25年は平年並みの発生となっている。近年、先の天候が読めない事が多く、播種が遅れたり、積雪期間が長かったりと雪腐病の被害を大きくしている。被害を最小限に抑えるためには、圃場で発生する雪腐病の種類を知り、それに効果のある薬剤を選択することが重要である。

## 3. 褐色雪腐病について

道央と上川地方で主に認められるが、平成25年度の調査では、オホーツク、十勝でも発生が見られている。病徴は湯をかけたような水浸状暗褐色、乾くと灰白色で薄紙状に葉が枯死するが菌核は形成しない。



病原菌である Pythium 属菌は湿潤な環境を好むことから、透水性の悪い圃場で多発する傾向がある。また、播種が播種適期遅限から10日以上遅れた場合や、積雪期間が長い場合などにも多発しやすい。褐色雪腐病の場面で使用できる薬剤では、ランマンフロアブルのみが有効である。褐色雪腐病の発生が見られる圃場は、雪腐病の慣行防除にランマンフロアブルを加えてご使用ください。

(記:山本)

(2013年5月)